

Q8 棚卸伝票（棚卸原票）方式により実地棚卸を行う場合の留意点を教えてください。

A8 現品や棚に貼付する棚卸原票（棚卸伝票）や棚卸表には、配布した棚卸原票等を全て回収できたかどうかの管理や、不正な混入・使用の防止の観点から、連番を振ることが望ましいと考えられます。

そのうえで、担当者の割当、カウムの進行状況の確認、カウム漏れの防止、不正の防止などを目的として、連番を管理するためのコントロールシートを作成することが望ましいと考えられます。

解説

i) 棚卸原票について

・棚卸原票（棚卸伝票）の一般的な書式イメージは、以下の通りです。

The diagram shows a form titled "棚卸原票" (Inventory Ticket) with the following structure and annotations:

- Header:** "No. 00010" with an arrow pointing to a box labeled "連番を振る" (Assign serial number).
- Text Box:** "カウント時は2人1組になり、1人がカウント数を読上げ、もう1人が記録する方式が一般的。" (During counting, two people work as a pair; one reads the count and the other records.)
- Metadata Table:**

実施日	2015年3月31日	読上者	記録者
保管場所	第1工場		
ロケーション	A-XX		
- Main Table:**

コード	名称	規格	単位	数量	摘要
- Footer Table:**

入力者	責任者	内部監査人
- Annotations:**
 - Arrow from "数量" (Quantity) to: "在庫管理システムから棚卸原票を出力する場合、帳簿数量が棚卸原票上に明示される場合もある。" (When outputting from the system, ledger quantities may also be shown.)
 - Arrow from "数量" to: "在庫管理システムへの棚卸結果のインプットが完了したことを示すために記入" (Record to show completion of input to the system.)
 - Arrow from "内部監査人" (Internal Auditor) to: "内部監査人による棚卸立会のサンプリング対象となった場合に記入" (Record when sampled by the internal auditor's inventory check.)

・棚卸原票（棚卸伝票）は、各品番と1対1に対応させて在庫の現物を確認した結果を記載後、回収するものであり、現物の代わりとなる重要な証拠資料です。そのため、メモ書き程度では不十分であり、統一した様式を設定することが望ましいと考えられます。

- ・貯蔵品や消耗品などに対しては、それらを一定の場所にまとめた上で実地棚卸することを前提に、1枚の棚卸原票（棚卸伝票）に複数の品目を記載する方法を併用する場合があります。

ii) コントロールシートについて

- ・コントロールシートの一般的な書式イメージは、以下の通りです。

棚卸原票コントロールシート						
実施日：2015年3月31日						
場所	配布		回収			
	番号	枚数	使用	未使用	書き損じ	枚数
第1工場	0001～ 0100	100	80	15	5	100
A倉庫	0101～ 0200	100	90	5	5	100
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

- ・配布された正規の棚卸原票（棚卸伝票）が全て回収されたことを確かめるため、棚卸原票（棚卸伝票）には連番を振ると同時に、各部署に配布された棚卸原票（棚卸伝票）の番号や枚数を記録・管理するコントロールシートが必要になります。
- ・棚卸原票（棚卸伝票）の発行が在庫管理システムにより行われ、回収後の入力をOCR等による読取で行っている場合などには、棚卸原票（棚卸伝票）の配布・回収の管理が在庫管理システム上で行われることもあります。